

## 特別セッション「東電福島第一事故から5年目を経て 原子力学会活動の総括と課題」

**福島復興に対する取り組み**

## Activities of Fukushima Reconstruction

\*三倉 通孝<sup>1</sup>, \*服部 隆利<sup>2</sup><sup>1</sup>東芝, <sup>2</sup>電力中央研究所**1. はじめに**

東京電力福島第一原子力発電所事故においては、炉内事象や廃炉措置など原子炉そのものへの対策が進められているが、一方で、福島復興にあたっては、環境へ放出された放射性物質による汚染対策や影響評価が不可欠である。原子力学会では、放射性物質の除去や環境修復について分析し、課題の検討と解決に向けた提言を行うことを目的として、平成23年4月に「原子力安全」調査専門委員会の下にクリーンアップ分科会や放射線影響分科会を立ち上げた。クリーンアップ分科会では、放射性物質による汚染状況の評価や除染技術対策を中心に取り組み、また、保健物理・環境科学部会では放射性物質による人体への影響や、住民への被ばく評価などは日々の生活や帰還計画にとって重要な課題に取り組んできた。

平成24年には日本原子力学会理事会直結の組織として「福島特別プロジェクト」が創設され、本プロジェクトの下でクリーンアップおよび放射線影響分科会の活動は引き続き実施されている。ここでは、クリーンアップ分科会および保健物理・環境科学部会がこれまでに実施した(1)提言、(2)情報提供、(3)放射線モニタリング、(4)水耕栽培試験、(5)地域との対話、(6)リスクコミュニケーション等の活動を中心にそれぞれの取り組みを述べる。

**2. クリーンアップ分科会の取り組み**

クリーンアップ分科会では、福島の住民の方々の現状復帰のため、住民の方々と各機関との間のインターフェイスの役割ができるように活動している。福島特別プロジェクトの下、福島県内における対話フォーラム(5回開催)やシンポジウム(年2回開催)において必要な情報発信をするとともに、除染情報プラザへはボランティアで土日曜日に専門家派遣を続けている。除染技術カタログを作成し公開し、また、現地で稲作時の放射性セシウムの挙動を5年間継続し、経時変化を確認。学会事故調査報告書では環境修復や放射線モニタリングを担当、関係機関に対し提言も発信も行っている。

**3. 保健物理・環境科学部会の取り組み**

保健物理・環境科学部会は、2011年4月に発足した原子力安全調査専門委員会放射線影響分科会、2012年6月に発足した東京電力福島第一原子力発電所事故に関する調査委員会(学会事故調)、2014年6月に発足した福島特別プロジェクトに参画し、福島第一原子力発電所事故後、福島復興を目指した様々な活動を継続してきた。また、春秋の大会の部会企画セッションでは、震災後5年間、常に福島第一事故に関連するテーマを取上げ、学術的かつ実務的な議論を重ねてきた。本発表では、その主な活動を紹介する。

---

\*Michitaka Sasoh<sup>1</sup>, \*Takatoshi Hattori<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Toshiba Corporation, <sup>2</sup>Central Research Institute of Electric Power Industry